



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 351

Oktober 2020

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

ドイツ再統一30周年に際して

会長 栞田 義一

10月3日ドイツは再統一30周年を迎えました。この祝日の正式な名称は「ドイツ統一の日 Tag der deutschen Einheit」と言い、一番大切な国民の祝日として祝われてきました。

東欧から始まった民主化とともに30年前に「我々こそが人民だ」というスローガンのもと平和裏に再統一されたドイツ。統一後東西間の経済力の格差に伴う依然として大きい旧東ドイツの格差（一人当たりの国内総生産(GDP)が旧西ドイツの4分の3にとどまる）。近年の移民・難民の流入を機に、東欧諸国をも含め民主化はいつの間にか熱を失い、ポピュリズム(大衆迎合)に吸い寄せられています。

報道によれば、今年は東部ブランデンブルク州の州都ポツダムでシュタインマイヤー大統領やメルケル首相が参加して記念式典が行われました。この式典でシュタインマイヤー大統領は「自由と民主主義のための闘いは終わっていない」と語り、ポピュリズムが広がり、自国第一主義が世界を不安定にしている今、再統一時の精神に立ち返るように呼びかけたという。「我々こそが人民だ」という30年前の民主化のスローガンが最近分断をあおる言葉として極右に悪用されていることを踏まえて、平和的な共存を訴え、「我々の統一は自由と多様性のもとでの統一だ」、「民族的な自己陶醉ではなく(自由と協調を重んじる)欧州的なドイツを選択した」と語り、最近の極右勢力の活動を改めて批判しました。メルケル首相も、東西が共存するには「勇気が必要だ」と訴え「若い世代のため勇気を持って新たな道を歩んでいきたい」と述べたとのこと。

神戸日独協会ではこれまで1990年の「再統一の年」、2010年の「再統一20周年」、2015年の「再統一25周年」をそれぞれ祝賀会を開催し、在神のドイツ人と会員とによって祝ってきました。本年の「再統一30周年」も祝賀会と記念行事の計画を進めましたが、コロナ感染が未だ収まらず、計画を残念ながら断念せざるを得ませんでした。来年は日独交流160周年を迎えますので、その折に改めてお祝いをしたいと思えます。

感染防止期間特別企画 『自宅でドイツを楽しもう！』

『家庭でドイツ料理を作りましょう』

ウイルス感染を配慮して外食を控え家でのご飯が続いていることと思います。このコーナーは、「家食」の献立にドイツ料理を取り入れていただきたく設けました。

これまで2回紹介したドイツ料理は、神戸日独協会「ドイツ料理教室」で日下部管子さんに以前教えていただいたレシピに加筆等をしていただきました。今回はこのコーナーのために初めてご紹介して下さるお料理です。今回もお料理にまつわるお話も執筆していただきました。

第3回 「アイスバイン(塩漬け豚(すね肉)の香草煮)」と

「カルトツフェルクューヘン(ジャガイモのケーキ)」

料理研究家 日下部管子さん

1. アイスバイン(Eisbein)

アイスバインはドイツ料理を代表する家庭料理のひとつです。

アイスバインの肉は、本来骨付きの豚スネ肉ですが、日本の一般的な肉店では手に入らないため、今回は手に入りやすい肩ロース肉を使用しました。

* ジュニパーベリーの思い出

アイスバインのレシピを作るにあたって、ケーラー前ドイツ総領事夫人のマルチナさんが、香辛料の一種であるジュニパーベリーが日本にはないと困っておられたことを今思い出しています。今ではインターネットで簡単に手に入ります。値段も500円前後ですので、誰でも簡単に購入できます。ドイツではザワークラウト作りで必ず使われますので、持っておくと便利だと思います。

これは、ヒノキ科の針葉樹(セイヨウネズ)の実で、色と形は少し小ぶりですがブルーベリーそっくりなのです。ドイツでは必ずと言っていいほどザワークラウトをはじめ様々な煮込み料理などによく使われていました。

ヘルマン家でも台所の調味料の棚には必ずあり、ホストマザーの Erika もよく使っていました。あるとき、台所に行くと、誰もいなくて、いつも気になっていた美味しそうなジュニパーベリーの蓋をあけ、こっそり数粒口に放り込み、一口噛んで、思わず吐き出しました。なんとも表現のしようもなく苦く、そのあと口の中が燃えるように熱かったのです。後になって、このジュニパーベリーはなんとお酒のジンの原料になるものだと知りました。

2. カルトツフェルクューヘン(Kartoffelkuchen)

カルトツフェルクューヘンは、簡単にフライパンでパンケーキのようにして焼いたり、又、砂糖など使わず塩と摩り下ろしたタマネギ、卵などを入れて焼いたものなど、様々なバリエーションがあるドイツの定番のおやつ的一种です。

* カルトツフェル(ジャガイモ)の思い出

ジャガイモは、ドイツでは日本でのお米と一緒に、ヘルマン家でも毎日食卓に出ました。料理法は簡単で、皮をむいたジャガイモを丸のまま鍋に入れ、かぶるくらいの水とたっぷりのバターを加えて、柔らかくなるまで茹で、出来たてを家族皆で頂きます。次の日は、残ったジャガイモをつぶして小麦粉と卵を入れて練り、ハンバーグより少し小さく手で丸めてフライパンで焼き、それが食卓に出ました。それでも余ったときは、野菜や肉のスープの中に入れていました。ヘルマン家では、残した食べ物を決して捨てることはなく、最後まで美味しくいただけるように様々な工夫をこらしていました。ちなみにジャガイモの皮も、裏庭に埋めて土の肥料になっていました。☆レシピは、調理時の便を考慮して別紙にて同封しています。

『ドイツの魅力、素晴らしさを共有しましょう』

ステイホームでドイツ文学をはじめドイツに関する書籍等を読んだり、ドイツ関係の映像を見たりしての紹介・感想などなどをお寄せください。「ドイツの魅力」を共有しましょう。ご寄稿をお待ちしています。

『ドイツ語の広場』

自宅でドイツ語の楽しさを共有するためにこのコーナーを設け、「ドイツ語での言葉遊び」を呼びかけましたが、今月も残念ながらご投稿はありませんでした。このコーナーでは言葉遊びをはじめ「ドイツ語」を楽しむ皆様の企画もお待ちしています。ぜひお寄せください。

会員の広場

ウイルス感染防止のために協会の行事・催しが出来ないために、会員相互の交流の機会を持つことが出来ずにいます。このコーナーは、会報を通して交流していただくための「広場」です。ご投稿をお待ちしています。

(投稿規定:MSPゴシック12ポ、A4サイズ1枚程度まで、添付にて毎月第二月曜まで事務局へ)

ドイツ大使館の Sommerfest に参加して

会員 湯浅 恵理子

さる9月22日(火・祝)に、東京の駐日ドイツ大使館大使公邸にて全国の若手の日独協会会員を対象とした「大使主催 日独協会夏祭り(Sommerfest)」が開催され、参加の機会をいただきました。今年の夏祭りは例に漏れず、コロナウイルスの影響を大きく受けた中での開催となり、前回に

比べて参加人数も少ないようでした。昨年よりドイツ連邦共和国駐日大使に就任されたイナ・レーペル大使も、こうした状況下でどのように国際交流ができるのか、模索をされているようでした。夏祭りは例年、参加者のみなさんで食事を楽しみながらお話をする形式のようですが、今年は庭にいくつか置かれたテーブルに間をあけて座り、お弁当をいただく形式となっていました。会の中で、社会人を続けながらドイツ語を学習している人、ドイツで働くことを目指してドイツ語会話を再び始めた人など、様々な環境でドイツ語に触れている方たちと出会いました。みなさんが、ドイツの地に再び赴くことができるよう努力を続けているようでした。

また、大使館で広報を担当されている方とお話をすることもできました。元々は国際交流の担当をされているということでしたが、このコロナ禍で活発な交流活動ができないことから、現在はツイッターでドイツの情報を発信されているとおっしゃっていました。旅に出られない今、ドイツの魅力をいかに伝えるかというところから始まって、ツイッターならではの情報の拡散力を生かしたネタづくりをされているようでした。たとえば、日本人の苗字をドイツ語風に言い換えてみる…といった記事は、ドイツ文化にそれほど親しみのない人たちの間でも広く話題になったようです。このような情勢だからこそ、インターネットを駆使して、遠い異国の地に想いを馳せる想像力をかきたてる取り組みは積極的で、素晴らしいと思いました。

さて、今年の夏祭りはどうしても、新型コロナウイルスのせいで幾分か鬱屈とした雰囲気があったように思います。二言目には、「早くこの状況が良くなって、ドイツに行けたら…」という感じです。そんな雰囲気からちょっとはずれてみようと思って、大使館の広報の方に「大使館のみなさんはどんなお店に飲みに行かれるんですか」と聞いたところ、なんとも模範的な回答が。「僕たちは仕事とプライベートを分けているから、仕事で飲み会に行くなんてことは滅多にないんだ」。ドイツ大使館御用達の Stammtisch を知るにはまだまだ経験が足りなかったようです。

K4ドイツ語講座を受講して

初級会話K4コース 杉本 正樹

私は一昨年の10月から初級会話コースK4に参加しています。担当は杉谷眞佐子先生です。先生の授業が興味深く、2年間も受講してしまいました。授業は、生きたドイツ語を Deutsche Welle のニュースで聞き、内容が理解できたかどうかを質問形式で確認するという方法で進められています。その際にテキスト Start Frei! 2 などを使って、ドイツ語基礎文法の復習をしています。Deutsche Welle のニュースは今のドイツの生活、政治や文化、歴史観などに触れているものが多く、重いテーマから軽いテーマまで様々ですが、私はドイツやEUの歴史や地理に関心があるので、大変参考になります。また、hot topic の紹介も。例えば、ドイツの大事なお祭りである Köln Karneval なども大変詳しく紹介してくださいました。来期はどのようなトピックを紹介してくださいますか？

ここ半年はコロナの感染防止の面から、Zoom オンライン授業と教室での対面授業の併用になっ

てしまいました。Zoom オンライン授業も完璧に進めてくださいましたが、人と直接つながることが大事だと思うので、やはり対面授業がいいですね。

Deutsche Welle のニュースは興味深い記事が多いのですが、聞くだけでは内容を忘れてしまうので、日本語にしてウェブサイトに掲載することにしました。これはドイツ語文法や表現の復習になると同時に日本語表現の整理にもなりました。ご興味があれば、まだテスト段階ですが、訪問してみてください。Deutsche Welle; Deutsch Aktuell: Top Thema の記事の紹介で、日本語の要約と私の所感を加えたものです。ビートルズの記事などがあります。オリジナルへのリンクも張っていますので、native のドイツ語を聞いてみてください。

Besuchen Sie bitte meine Website!

<https://head2tomorrow.com/>

現在、K4コースの受講生は私を含めて2名だけですが、新学期からはもっとたくさんの皆さんが先生の講座を受講されてドイツ語、ドイツとEUの文化、歴史を共に学ぶことができれば素晴らしいと思います。皆さんの参加を楽しみにしています。

企業視点で見たドイツ社会の良さ(2) 「自動車改革」

会員 藤澤 史朗

コロナの影響で通勤や旅行等で自動車の利用がかなり増えてきていますので今回は、参考までに『自動車業界の画期的な取り組み』について案内したいと思います。

ドイツの自動車業界の雄と言えばフォルクスワーゲン（VW）が筆頭に挙げられます。国内においては国家財政を支える極めて重要な立場にあり、ニーダーザクセン州の資本も入って半官半民の体質を持つ、かなり特殊な企業グループと言えます。フォルクスワーゲンはご存知の方がかなり多いと思いますが第二次大戦前から軍事政権に翻弄され、軍需への全面協力や国民向けの宣伝にも利用された辛い過去を経験しています。しかし戦後は極めて安定した企業体制に移行し、急拡大の路線を突っ走ってきました。終戦時点では英米の監視下にて一旦、国営化され、その後民営化に切り替わっています。しかし英米両国ともドイツの自動車業界の水準を高く評価しなかった事が日本とは異なり、規制緩和に繋がり、早期の活性化につながったと言われています。そして戦後の初号機は“カブトムシ”と称された『ビートル』であり、その耐久性や経済性が極めて高く評価され、瞬く間に世界市場を席卷した事は有名であります。元々、レーシングカーのエンジン設計をしていたフェルディナント・ポルシェが技術的な基盤を作った会社でもあり、技術水準は世界でもずば抜けたものを保有していたのは間違いありません。その後、変遷を経て、M&A志向の強い企業体に変身していきます。そして現在は日本のトヨタ社とグローバルでのトップシェアを争う競争となっています。ところで日本の自動車業界の最盛期においては米国GMを含め、フォルクスワーゲンもトヨタ社のジャストインタイムの生産方式の後塵を拝する結果となり、長い低迷期間を送っています。これをきっかけとして、ドイツの自動車業界がライバル会社の枠組みを外して、ダイ

ムラー社（ベンツブランド含む）と連携し、驚異の大挽回作戦を展開したのです。ところで自動車業界におけるシェア競争は大衆向け自動車でのコスト競争と言えます。そのためいかに安く、性能良く、デザイン性の高い車を短期で製造するかが問われます。それに向けてドイツの連合体が取り組んだ内容は全車種のシャシー（架台）のパッケージ化（MQB：Modulen Quer Baukasten）という極めて難しい製造改革でした。個々の車種について一から設計をする取り組みを廃して、共通のプラットフォームを作り、全体的な標準化を行い、自動車サイズに応じて容易に変更できる仕組みを採用しています。それにより大幅な設計工程の削減や共通部品拡充に繋げるといって極めて斬新かつ効率よい設計製造の方式ができあがり、3割のコストダウンを実現したと言われていています。言葉では説明しにくいのですが極めて画期的な改革内容であり、ライバルが肩を並べ、長期を覚悟して事業改革に取り組む事自体、日本では考えられない取り組みでした。そして2010年前後には関わったドイツの自動車業界が約二桁の成長を達成しています。計画通りの成果をきっちり出すドイツ企業の大改革に、広く称賛の声が送られた次第です。先般の排ガス不正のトラブルは誠に残念な出来事でしたが本来は物事の本質を捉えて抜本改革に取り組む企業群および国家であり、大いなる復活を期待するばかりです。

10月の実行委員会のお知らせ

10月の実行委員会を下記のとおり開催します。実行委員以外の方にも是非ともご参加の上ご意見をいただきたくお願いいたします。

日 時： 10月18日(日)15時～

場 所： 神戸日独協会会議室

ドイツ語講座・ドイツ文化教室第Ⅲ期開講

10月5日(月)よりドイツ語講座・ドイツ文化教室の2020年度第Ⅲ期が開講しています。

当分の間はかつてのようなドイツ及びドイツ語圏の国々との往来もままならず、ドイツ人との交流も疎遠となりがちになるでしょう。しかしこの機会をドイツ語のブラッシュアップや学び直しの好機ととらえて、交流の復活以降に備えてみませんか。

開講授業の詳細については、先月号に同封のパンフレットをご覧ください。協会事務室へお問い合わせください。

ドイツ語講座の多くのクラスは前期からの継続クラスですが、途中からの受講は可能です。

今年の秋は、駅からも近い教室で「ドイツ語体験」をしてみましょう。ご参加をお待ちしています。

ドイツ語談話室

第199回ドイツ語談話室

日時：2020年9月19日(土) 14-16時

場所：神戸日独協会会議室

テーマ：私の楽しみ

今回の司会は松浦庸夫氏が担当され、自らの楽しみについて、永年やっている基に加えて、最近奥様の体調不良からやり始めた料理にはまっていることを話された。料理を作るには材料の買い出しから調理の手順までいろいろと頭を使い、完成の喜びもある。

次に参加者の皆さんが各々の楽しみを述べられた。以下その一部を紹介する。

—住んでいる住宅団地で、ボランティアの庭仕事をしているが、季節ごとの花苗を植えそれらがきれいに咲きだすのを楽しみにしている。また、永年やっているゴルフも楽しみの一つ。

—車で日帰りの小旅行に行くのが楽しみ。コロナ禍で近場が多いが、有馬温泉では、最近できたイタリアンジェラートのおいしい店を見つけた。

—80歳の若さで、テニスを週2回楽しんでいる。最近、新しくハンディーを買って、その多種多様な機能をトライして楽しんでいる。

—娘が、父親である自分のために、いろいろと料理を考えて作ってくれるのが楽しみである。

—コロナ禍で旅行関係の仕事が止まってしまっているが、そのため時間が充分取れ、読書などを楽しんでいる。ドイツ語の勉強やドイツオペラの鑑賞も楽しい。

—ドイツでは、ほとんど全ての催し物が中止になってしまった。今は、昔読んだ子供のためのメルヘンを再度取り出して、面白く楽しんでいる。

—平穏な毎日の生活を楽しんでいる。そうした中でも、何か新しいやり方や新しいことをやって楽しんでいる。

—クラシック音楽を聴いたり写真を撮るのが長年の楽しみである。また、DVDやLPレコードの鑑賞も楽しみ。

今後のドイツ語談話室の予定

第200回 2020年10月17日(土) 14-16時 テーマ：コロナ禍での生活様式

第201回 2020年11月21日(土) 14-16時 テーマ：アメリカの次期大統領

Deutsche Gesprächstunde

Protokoll der 199. Deutschen Gesprächstunde

Zeit: Samstag 12. September 2020, 14 bis 16 Uhr

Thema: Meine Freuden

Dieses Mal hatte Herr Tsuneo Matsuura die Gesprächsleitung und sprach von seiner langjährigen Freude am Go-Spiel. Neuerdings findet er auch Freude am Kochen, das er

wegen einer Erkrankung seiner Frau übernimmt. Beim Kochen muss man alles gut überdenken, die richtigen Lebensmittel kaufen, Reihenfolgen einhalten etc.. Es ist eine große Freude, wenn alles gelungen ist.

Die Teilnehmerinnen und Teilnehmer erzählten von ihren eigenen Freuden.

-Ein Teilnehmer findet Freude an seiner freiwilligen Arbeit als Gärtner. Er pflanzt Blumen je nach Jahreszeit und erfreut sich an der Blüte. Außerdem bereitet ihm auch das Golfspiel schon seit vielen Jahren Freude.

-Ein Teilnehmer macht gern Tagesausflüge mit dem Auto. Wegen des Corona-Virus wählt er Ziele in der näheren Umgebung. Im Bad Arima fand er ein neues gutes italienisches Eis.

-Ein 80-jähriger Teilnehmer spielt zwei Mal pro Woche Tennis. Vor kurzer Zeit hat er sich auch ein Smartphone gekauft und findet immer mehr Funktionen, die ihn interessieren und die ihm Spaß machen.

-Ein Teilnehmer freut sich immer besonders, wenn seine Tochter für ihn etwas kocht.

-Wegen des Corona-Virus hat eine Teilnehmerin zurzeit keine Arbeit. Sonst arbeitet sie als Reiseführerin. Aber sie hat nun mehr Zeit zu Hause, wo sie Freude am Deutschlernen, am Lesen und am Hören von deutschen Opern findet.

-Eine Teilnehmerin ist enttäuscht, dass in Deutschland fast alle Veranstaltungen abgesagt wurden. Sie findet jetzt Freude am erneuten Lesen lustiger Märchen, die ihr als Kind sehr gefallen haben.

-Eine Teilnehmerin findet ihre Freude am normalen und friedlichen Leben. Sie genießt es, verschiedene neue Sachen auszuprobieren.

-Ein Teilnehmer hat Freude am Hören klassischer Musik und am Fotografieren. Er mag auch Schallplatten und DVDs.

Nächste Treffen:

Samstag 17. Oktober 2020, 14 bis 16 Uhr. Thema: Wie verbringe ich meine Zeit während der Corona Krise

Samstag 21. November 2020, 14 bis 16 Uhr. Thema: Der nächste Präsident der USA

ドイツ新事情 —Deutsche Welle の記事から—

アンケート調査によるドイツ人の不安指数

会員 山崎 竜司

コロナ禍であるにもかかわらず、ドイツ人は楽観的でありこれまでのように不安というものをあまり感じていない。このことはある研究の予想外の結果であった。不安ランクで最も上位に位置したのはあの1人の政治家であった。

28年前からドイツ人の不安、心配事に関するアンケート調査がR+V(Raiffeisen-und Volksban-

ken)保険会社の依頼で行われている。この調査によると、このコロナの年2020年においてドイツ人はここ数十年にないほど不安の指数を下げているように見える。当然、ドイツ人は公共スペースにおいてマスクを着けてコロナに対して慎重に行動しているのだが、それでもコロナ感染症に対する不安を抱いているのは少数に過ぎないということは意外な結果である。全体の不安指数も39から37へと下がった。これは調査開始の1992年以来、最も低い数値であった(高い失業とイラク戦争勃発の2003年と難民危機とテロ・過激主義の2016年には指数は最も高い52であった)。「ドイツ人はコロナのパンデミックに対して全くパニックを起こしていない」とR+V情報センター所長のブリギッテ・レームシュテット氏は説明した。「多くの不安・心配事は減り、様々な問題はコントロールされており、コロナの対応もすでに上手くやっている」という感覚をドイツ人は持っているのだろうと同氏はDeutsche Welle に答えた。ほんの数年前までは戦争、テロ、外国からの移住者、過激主義といった不安をドイツ人は強く感じていたが、現在は別の不安がランクの上位を占めている。

この調査では、ドイツの14歳以上の男女2400人が6月の始めから7月の終わりまで、最も危惧する政治上、経済上、個人上そして環境保護上の不安、心配事について質問された。その結果、ドイツ人にとってはコロナ感染症への不安は比較的低いものであるということがわかった。コロナが蔓延している今年において、たった32%(前年は35%)(%はこの調査の回答者比、以下同じ)の人しか重篤な病気(eine schwere Erkrankung)というものを恐れていないし、同じように回答者のたった3人に1人だけしか自分自身や身近な人がコロナウイルスに感染するということを危惧していないのである。全く同様の結果をARD-Deutschlandtrendの調査も今月初めに得ている。

「COVID-19についての不安よりも豊かさが失われることについての不安が大きい」

ドイツ人は、再びコロナの感染者数が増大しているのにもかかわらず、コロナ感染の危険はまだ続くだろうと意識しているのに、かなり平静さを失わずにいる。グローバリゼーションによって生じる将来のより頻繁なパンデミックを恐れる人もたった42%しかいなかった。「ドイツ人は明らかに、このウイルスによる健康被害以上に、このウイルスが彼らの経済的な豊かさを脅かすことを心配している」とレームシュテット氏は話した。2020年の景気予測は暗い見通しである。それどころかより深刻な景気後退のことを話す人さえいる。ドイツ政府によると今年の国内総生産(Bruttoinlandsprodukt)は約6%程落ち込むであろう。このことが世論に影を落とさないわけがない。経済上の様々な不安や失業の可能性が再び不安ランクのより上位を占めている。生活費の高騰に対する恐れは51%で、不安ランクの第2位であった。この不安に関するアンケート調査の結果と評価についてR+V保険会社に助言しているハイデルベルグ大学の政治学教授であるマンフレッド・G・シュミット氏はこの結果に驚かなかった。「コロナ感染の第2波が広がればさらに深刻な経済の崩壊を起こしうるという恐れが、経済の将来についての世界的規模の不確実さへ関与している」。そうなると当然、失業というテーマが生じるのだが、現在のところは失業への不安はランク20の内の13位にすぎないのだが、それでも約40%のドイツ人が失業の上昇に不安を感じている(前回よりも12ポイントの増加)。

「ドイツ人は、コロナに対する不安以上に、トランプ氏に対してさらに強い不安を抱いている」

11月3日にアメリカで大統領選が行われ、新しい大統領か今の大統領が選ばれる。トランプ大統領の再選は、多くのドイツ人にとってはホラー映画以上に嫌悪感や恐怖を催すものであるのだろう。

トランプ大統領が53%でもって、不安ランクの堂々第1位であったのだ。2018年にトランプ氏は同社のアンケートですでにトップに位置していた。シュミット教授はこのようなトランプ大統領に対する不安や心配を「当然な」ものだと思っている。「トランプ大統領は、中国との貿易戦争やドイツのような同盟国に対して激しい非難攻撃を与える外交政策により、世界的なひどい混乱を引き起こしている」と同教授は述べ、「アメリカは国際的な協力体制からも身を引いている」と付け加えた。

「移民にまつわる論争はもうほとんど不安をかき立てていない」

このアンケート結果を信用するならば、これまで様々な大きな不安心配事を招いていた政治的なテーマが意味を失っている。最も度合いが下がったのは移民のテーマを巡る様々な不安についてである。移民に関する指数は10ポイント以上低下して、ここ5年来で最も低い水準であった。外国からの移住者が増えることによって生じるドイツ人とドイツ在住の外国人との間の緊張・摩擦を不安と感じている人は43%に下がり(前年は55%)、また、難民政策でドイツにかかる過重な負担を危惧する人も43%(前年は56%)と低下した。

さらにまた驚くべき結果がこのアンケート調査で明らかになった。ドイツ市民は、ドイツの政治と政治家たちは今よりもっと多くのことが出来ると思っているのだ。現在、政治家たちが政治の仕事で過剰な負担をしていると危惧するドイツ人は約40%しかおらず、この数値は2000年代になって最も低いものである。このことは、コロナパンデミックにおいてドイツ政府が全体として危機管理を上手くやっているということと関連している。「ドイツの政治家たちはまだ政治家として模範生になってはいない、しかし進級できるレベルではある」とレームシュテット氏は明確に述べている。

Deutsche Welle: Deutsche haben mehr Angst vor Trump als vor Corona (10.09.2020)より。

(このコーナーは、神戸日独協会ドイツ語講座講読クラスLN(火曜日)の受講者が授業で読んだ記事の中から興味深い up date なニュースを随時会報にて紹介しています。)

事務室からのお知らせ

会報印刷・発送ボランティア募集

会報の印刷と発送を手伝ってくださる方を募集しております。

次回の印刷と発送は11月12日(木)を予定しています。お手伝いいただける方は事前に事務室へご連絡下さい(TEL/FAX 078-230-8150)。

印刷: 兵庫県国際交流協会作業室(神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号国際健康開発センター2階、県立美術館西隣)にて、10:30より1時間半程度

発送: 神戸日独協会にて、12:30~

これからの神戸日独協会の催し

行事及び催し物の開催については、ウイルス感染防止のため日時の確定及び実施が極めて流動的ですので「一覧表」は割愛させていただき、その都度別途「協会ホームページ」でお知らせいたします。「協会ホームページ」でご確認いただくか、あるいは協会事務室へお問い合わせください。